

vol.95

2017 年 3 月号

公益財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金

〒105-0022 東京都港区海岸 1-4-26 ゆうらいふセンター

電話：03-3434-2170 FAX：03-5401-0681

URL: <http://www.niceheart.or.jp/>



な い す は あ と



ウインターキャンプ2017の集合写真

表紙／写真 ウインターキャンプ2017	1
報告／ウインターキャンプ2017	
矢野 秀幸さん（実行委員／日産テクノ労組）	2
水野 菜月さん（実行委員／明星大学教育学部）	4
平成29年度事業計画	6
ふれあいのスポーツ広場日程／賛助会員お礼	8



ウィンターキャンプに参加して

日産テクノ労組

矢野 秀幸



初めてのふくしまっこキャンプで

わたしは、2014年“ふくしまっこキャンプ”に初めてお手伝いとして参加させて頂きました。

どの様に子供達と接して良いのか右も左もわからず子供達に翻弄させられっぱなしでしたが、終ってみると疲れよりも子供達から元気と若さをもらい、楽しかったという思いが強く「またお手伝いに参加したい」と思い2015年から3回目のウィンターキャンプの参加となりました。

毎年、開催日の天候が心配されておりますが、今年は前日に春一番が吹き当日は少し気温が下がりましたが極寒の御殿場という事もなく、さらに晴天に恵まれ、“ふくしまっこキャンプ”以来、外でグラウンドを楽しそうに走り回る子供達を久しぶりに眺めることが出来ました。その為か、いつもより就寝時間になった時、殆どの子供が部屋へ戻っておやすみして、残った子供数人も程なく部屋に戻りました。

こどもたちへの接し方は

昼間キッチリ元気いっぱい活動して早寝早起きする。自分が子供だった頃はこんな感じ



おやつ作り / デザートピザ

で遊んだりしていた事を思い出します。又、専門に日々学んでいらっしゃる明星大学の学生さん達の子供達への接し方は、臨機応変に一人ひとり隅々まで合わせてサポートされていて、いつも感心させられます。

こどもお風呂 Help で

今回、個人別行動予定表を配布され、目を通すと屋外活動の後に“こどもお風呂 Help”という項目がありました。そこで、開会式が始まる前に予め防寒ズボンの中に短パンを穿いて準備しておりました。外で使用した防寒ズボンを脱ぎ、お風呂場で短パンで対応していた途中、学生OBさんが子供のいたずらで服

のままお湯をかけられてしまいました。濡れたまま館内を歩く事が出来ない為、短パンを被水した人へ渡し、2重に穿いていたズボンが役に立って良かった〜と。

その様な感じで、子供達を看ている彼等が活動しやすい様に、火起こしや進行するプログラムの準備や片付け等の裏方としてお手伝いさせて頂きました。

忘れ物発表会（？）で

二日目の朝、いつも富士山のご機嫌を窺っ



当日班プログラム



夜プログラム / 紙芝居

て撮影する集合写真でも、例年通り今年もキレイに収まり、二日間 ゲームや工作を交えて子供たち・親御さん・実行委員、みんなで楽しく過ごす事が出来て良かったと思います。

最後の最後でちょっとしたお楽しみは、忘れ物発表会（？）で、恥ずかしそうに引取りにいく光景…反面、“明日は我が身”という引締められる気持ちも戻ってきます。近所の子供たちと遊ぶときの参考になります。毎年、楽しい二日間 ありがとうございます。

ウインターキャンプ2017実施概要とスケジュール

1日目

11:45 ~ 随時集合／昼食
13:30 開会式プログラム～ Relax&Enjoy ~
14:30 おやつ作り（アイスクリーム&デザートピザ）／当日班プログラム
大人のプログラム
～スリットドラムの工作 / 音楽ワークショップ～
17:00 子ども入浴
18:30 子ども夕食 / 大人入浴～夕食随時
19:40 夜のプログラム～ねおる～
20:00 大人懇談会（星山先生のおはなし）
22:00 実行委員会 / 大人懇親会

2日目

07:00 起床
08:00 朝食
09:00 集合写真
運動プログラム～六輪ピック～
11:00 工作プログラム～今の良き思い出～
12:20 昼食
13:30 閉会式プログラム～ OPEN THE DOOR ~
14:30 解散

主催

日産労連

NPO 法人日産労連 NPO センターゆうらいふ 21

明星大学星山ゼミ

公益財団法人国際障害者年ナイスハート基金

実施主体

ウインターキャンプ2017 実行委員会

協力

NPO 法人土に還る木・森づくりの会

NPO 法人自立支援センター歩歩路

日程

平成 29 年 2 月 18 日（土）～ 19 日（日）

会場

ゆうらいふ御殿場（静岡県御殿場市）

参加者

25 家族 74 名

おとな 37 名 こども 37 名

実行委員

明星大学 48 名 / 日産労連 15 名

歩歩路 4 名 / ナイスハート基金 2 名

看護師 1 名

参加者合計 144 名

ウィンターキャンプに参加して

明星大学教育学部

水野 菜月



ウィンターキャンプの最近は雪ではなく晴の年が続いており、そろそろ雪の年ではないかと言われていました。絶対に晴れがいいと思いながらも、その反面、子どもたちは雪のほうが楽しいかなあと考えながら天候にドキドキし、毎日天気を調べていました。前日に雨が降り、外で遊べなくなるのではないかと心配もありましたが、1日目は曇り、2日目は晴天という天候で、2日目は富士山がとても綺麗に見えた年になりました。そんな中、大きなケガ・事故もなく、無事にウィンターキャンプ2017を終えることが出来ました。

学生のミーティングは9月から始まりましたが、なかなか集まらないという波乱の幕開けでした。今までとは違い学生の意識に差がある中、それでも毎週のミーティングに取り組んでいました。人が来ない、それでも進めなくてはいけないミーティング。皆が戸惑い、なかなかプログラムを詰め切れない日々が続きました。それでも当日の子どもたちの姿を想像しながら一生懸命考え、ようやく納得のいくプログラムが完成しました。

不安の中始まったウィンターキャンプ1日目。今年は開会式の前に約20分間の話合いの時間を取りました。グループ毎に家族で話し、担当の学生を知ることでご家族の方は安心して引き渡しが出来たのではないかと考えてい

ます。

当日班プログラムでは、風があり寒い中、外でおやつ作りをしました。アイスクリームとシャーベットの材料を筒に入れ、皆で蹴ったり投げたりと、最後まで汗をかくくらい夢中になって遊んでいました。2つあったことで、輪に入れない子どもも担当の学生やボランティアさんと一緒に遊んでいる姿も見ることが出来ました。筒を開けた時の歓声がとても大きく、キャンプだからこそできたおやつ作りになったのではないかなと思います。

新しい試みとして、お風呂の時間にお話しの会を設けました。開会式前の20分間では話したりないことや1日目の子どもの様子を伝えることができ、学生にはもちろん保護者の方の安心感につながる時間になったのではないのでしょうか。

夜プログラムでは、ランタンがとてもキレイで、子どもたちからとても好評でした。部



夜プログラム／ランタン



運動プログラム／大玉送り

屋に戻ってからもランタンが部屋に欲しいという声があり、何度か届けました。それぐらい素敵なランタンだったと思います。ロビーを暗めにして行っただので、眠りに入りやすいプログラムでした。

予想以上に子どもたちが寝るのが早く、勝手に楽しかった1日だったのかなと思っています。不安と緊張の中始まりましたが、おやつ作りをきっかけに皆が楽しそうで笑顔がたくさんあった1日目でした。

2日目は、富士山がとてもキレイに見え、写真撮影から始まりました。

運動プログラムでは、3つの種目を子どもたち同士で、家族で、全員が楽しめたものだったのではないかと思います。サイコロGoの時には、お母さんやお父さんが子どもたちの頑張っている姿をカメラに収めているのがとても微笑ましかったです。

工作プログラムは、家族で作りました。子どもたちが夢中で作っており、完成したものを嬉しそうに見せてくれました。思い出きらきらボトルを作る時間でしたが、ロケットを作っている子どもの姿もありました。想像力が本当に豊かでどれも素敵な作品ばかりでした。

閉会式では、2日間の中の一番の思い出を紙に描いてもらいました。アイスクリームの絵や学生と遊んだときのコマなど、思い思いに文章や絵で表現していました。「楽しかったよ」と言いながら文章や絵を見せてくれる子が多く、笑顔があふれている時間でした。

最後のキャンプは楽しいこともありましたが、それよりも大変なことばかりで、終わった時には「やっと解放される」と一番に思ったのが率直な感想です。それでも、この2日間を通してたくさんの笑顔が見られたこと、「楽しかった」の言葉が聞こえたこと、とても嬉しく、半年間頑張った良かったなと思います。“笑顔”と「楽しかった」の言葉で、夏から始まったこの半年間の準備期間の辛さを一瞬で忘れさせ、幸せな気持ちになれるのだと知りました。

このキャンプに参加したすべての人に、新しい関係性が生まれたら幸いです。学生同士・参加者同士・スタッフ同士など新たな関係性がこれからも続きますよう願っております。

最後に、ウィンターキャンプ2017を企画・運営する中で、ナイスハート基金、日産労連、星山先生、NPO 土に還る木・森づくりの会、OBOGの方など多くの方々に支えて頂き、キャンプ本番直前まで本当にご迷惑をおかけしました。こんなにも多くの方に支えられ、スタッフ丸となって出来るキャンプはそうないと思います。それほど、たくさんの方に支えられ出来ていると感じたキャンプでした。2日間、たくさんの笑顔が見られたのも、大きなケガや事故がなく終わったのも、最後までお力添えして頂いたおかげです。ウィンターキャンプ2017に関わったすべての皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



工作プログラム／思い出きらきらボトル作り

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施

障害のあるなしに関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。昨年度には開催地域も全国41会場までに拡大し、初めて新潟県において開催することができました。障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造し、実施しております。

現在、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき、実施すると共に、公益社団法人日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。

実施時期 平成29年4月～平成30年3月

開催地域 北海道、青森、岩手、秋田、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、新潟、富山、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

開催数 全国41会場（予定）

共催 全日本自動車産業労働組合総連合会

後援（予定） 内閣府、スポーツ庁、開催都市他



(2) ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

平成29年度については、平成28年4月の熊本地震の被災地である熊本県内の特別支援学校、障害者施設を中心とした子どもたちに体験いただきながら、指導者に対して理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期 平成29年9月

対象者 特別支援学校の子どもたち、教職員、ボランティア等

ファシリテーター：

庄崎隆志（office 風の器主宰・俳優・演出家）

メイミ（漫談家・NPO 法人笑顔工場理事長）



2. 開発、普及及び育成事業

(1) ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップの実施

当基金が設立以来、実施を重ね開催規模を広げている「ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」事業では、多くの障害者スポーツに関わる指導者の助言や協力のもと、従来になかった新たな競技を開発し、プログラムとして提供してまいりました。日本福祉大学スポーツ科学部教授である藤田紀昭先生が、学生のみなさんと協議を重ね開発してきたプログラムです。

過去3年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として、東日本大震災の被災地である、福島県、宮城県内及び愛知県内においてワークショップを行い、屋外活動が制限されている地域において、室内で楽しむことのできる競技開発をテーマに開催いたしました。今年度は、2回目となる福島県内において実施し、障害のある子どもとそのご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマに開催いたします。

実施時期 平成29年9月4日(月)～9月6日(水)の3日間

会場 福島県内の特別支援学校等

対象者 教育・福祉・体育の専門職員及びその学習をしている学生等



(2) 各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

刊行時期 平成30年3月

発行部数 当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

(3) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に務めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年4回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めています。

発行月 6月、9月、12月、3月

発行数 各2,000部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

内容 ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

3. 調査研究事業

(1) ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」で実施している、ユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、同様な取組を行っている様々な立場の指導者の相互研究の場として研究会を組織化し、プログラムづくりと指導者交流の場として位置づけます。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

(2) ユニバーサル音楽ワークショップ研究会の実施

「ユニバーサル音楽ワークショップ」で生まれた課題や、新たな手法を研究し、ワークショップという手法の有効性を確認しながら、新たなプログラムの枠組みを検討していくために、研究会を組織し、専門家を交えて検討してまいります。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

ふれあいのスポーツ広場上半期の開催日程

自動車総連の皆様の心強いご支援により全国各地にて展開している「平成29年度ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」は、4月より上半期の開催を迎えます。現在20会場を予定しております。



No.	開催地	日程	会場
1	宮城	4月15日(土)	仙台市青葉体育館
2	宮崎	4月17日(月)	延岡市民体育館
3	栃木	5月13日(土)	わかくさアリーナ
4	香川	5月17日(水)	善通寺市民体育館
5	富山	5月20日(土)	富山市八尾スポーツアリーナ
6	広島	5月20日(土)	広島市東区スポーツセンター
7	岩手	5月22日(月)	奥州市総合体育館Zアリーナ
8	長野	5月27日(土)	東御中央公園第一体育館
9	群馬	5月27日(土)	群馬県勤労福祉センター
10	京都	6月4日(日)	京都市障害者スポーツセンター
11	福岡	6月5日(月)	福岡市民体育館
12	岐阜	6月7日(水)	わかくさ・プラザ
13	山口	6月11日(日)	ソルトアリーナ防府
14	茨城	6月13日(火)	水戸市総合運動公園体育館
15	兵庫	6月14日(水)	ベイコム総合体育館
16	福島	6月17日(土)	須賀川アリーナ
17	石川	6月19日(月)	いしかわ総合スポーツセンター
18	愛媛	6月21日(水)	ツインドーム重信
19	鹿児島	6月26日(月)	鹿児島市民体育館
20	岡山	7月23日(日)	倉敷市水島緑地福田公園体育館

ナイスハートなご支援をありがとうございました

当基金が事業を行うための運営資金として、寄付金と賛助会員の会費が重要です。より多くの方々が趣旨をご理解いただき、ご厚志を賜りますようお願い申し上げます。



■賛助会員 賛助会員会費 1口 1万円

12月から2月までの間にご厚志をいただいたみなさま
(順不同/敬称略)

【賛助会員】ワークセンター栗の木様、岩佐浩一様

【寄附金】

野口昇兵様、高良明枚様、(特非)フレンズ様

【特定寄附金】野口昇兵様